

みつくら

令和 5年2月15日 第380号
 発行 大瀬川活性化会議
 編集 「みつくら」編集委員会
 花巻市石鳥谷町大瀬川10-45-2
 大瀬川振興センター 電話45-6472

“お〜い!集まろう!創ろう!みんなの大瀬川!”

葛丸川沿岸修復工事が間もなく完了

平成25年8月9日に発生した、岩手県央集中豪雨で流失した大瀬川地内の葛丸川沿岸2カ所の復旧工事は、災害から9年を経てようやく始まった。場所は千島苑北側の葛丸川南岸70mと、清五郎竈家付近の葛丸川南岸30mである。

思えば、あの災害時には、山王海ダムと葛丸ダムの雨量は、1時間に80mm（花巻空港測候所は40mm）と観測史上最大を記録し、滝名川の氾濫の他に大瀬川でも茂左右衛門家の高速道下が冠水したり、小葉師家付近の市道が決壊、さらに高井沢（沢の名）から小桧山沢までの蜘蛛取沢、一ノ沢、二ノ沢、作ノ沢、奥内沢、東山館沢、山館沢、山梨沢と総ての沢が氾濫し道路が破壊したものであった。葛丸ダムまで通行が出来るようになったのは1ヶ月後である。

今回の復旧工事は山下組が受注し、現場監督は田中家の菅原茂さんで、「どちらも2月末までには完了の予定です」と話しておられた。

第八区農家組合が最近の農業事情を研修

12月4日に第八区農家組合（板垣由喜組合長）では、24名が出席して大瀬川振興センターで研修会を開催した。開会にあたり板垣組合長は「コロナの為に3年間も研修旅行は中止になりましたが、皆様の為になる講師に来て頂いておりますので、今後の営農に役立つことと思います」と話された。

はじめにJA花巻石鳥谷支店の平野管理課長から「農業の現状と農業政策」について説明があり、JA花巻の令和4年度の実績と5年度以降の情勢の中では、特に肥料の価格高騰の対策について詳しく説明された。続いて藤原県農業共済組合中部地域センター担当から、収入保険についての説明がされ令和3年度の支払い額は前年度の5倍、20億円を超えたとの報告があった。最後に当農家組合が以前に研修に向かった奥州市にある（株）上小田代表伊藤周治さんからは「中山間地での基盤整備をして農地を集積し、法人化した。その後6次産業化を進め、現在では株式化して安定した収益を上げるまでに至った」と経緯の講演があった。当地区でも基盤整備

計画が進められており参考になる研修であった。

第九区農家組合が「中間管理方式」を研修

第九区農家組合（熊谷政子組合長）では、九区自治公民館で12月11日に25名が出席して研修会が開かれた。

紫波町片寄の一般社団法人 里地里山ネット漆立の漆澤清孝理事長を講師に「地域まるごと中間管理方式と一般社団法人について」と題した講演をお聞きした。地域の農地をまるごと農地中間管理機構に貸出し、さらに社団法人がその農地を機構から借り受け地域の農地を一元管理する方式。法人は営農意欲のある農家に特定農作業委託をする。農地をまるごと貸し出すことにより高い単価で機構集積協力金を得ること、特定農作業委託方式を活用することで、受託者には販売権もあることから従前と同様に営農が可能になるというもの。大瀬川でも、現在計画中の基盤整備計画があるので参考になると思われる。

年末年始の安全啓発で全戸訪問

12月17日に交通安全協会大瀬川分会（板垣吉彦分会長）主催の交通安全と地域防犯の啓発全戸訪問を行った。これには大瀬川活性化会議、交通安全母の会、各自治公民館、防犯協会大瀬川支部、交通指導員が協力団体として参加。出発式で板垣分会長は「例年よりも雪の多い中の協力で感謝します。今回は、年末年始の飲酒運転撲滅と、地域の交通安全や防犯に気を引き締めるよう全戸訪問をお願いします」と挨拶され、参加した35名が15チームに分かれ、交通安全カレンダーと啓発のチラシ4枚、さらにアマビエの夜光反射材1個をセットにして各戸に配った。

配布したカレンダーには毎日の欄に合わせて365ヶの交通安全標語が記され、当号が発行日の2月15日の欄には「無理な黄色は赤より危険」とあった。石鳥谷町内では、令和4年中に振込詐欺が2件あり、合わせて140万円の被害があったとのこと。こうした啓発活動で住みよい大瀬川をめざしたい。

大瀬川の団員も文化財防衛訓練

数多くあるボランティアの中でも、ボランティア中のボランティアと言われる消防団は団員のなり手が無く、団員不足が全国的な課題となっているという。そんな折に、最近の団員の活躍をお伝えしたい。

直近の活動は、1月22日に行われた令和4年度花巻市石鳥谷地域文化財防衛訓練に大瀬川の13分団第一部と第二部の団員15名全員が参加した。場所は北寺稲荷神社であった。訓練には石鳥谷総合支所、花巻北消防署、花巻市消防団役員、第13分団役員と団員、神社関係者など合わせて48名が参加した。開催は9時20分からであったが、それに先だって大瀬川の1部と2部の団員が周辺地域へ「訓練であること」を巡回周知した。訓練は、神社から火災発生のお知らせ、初期消火、重要物件の搬出、鎮火までの手順や行動など計画通り行った。閉会行事では菅原浩孝石鳥谷総合支所長から挨拶と、小原孝治花巻消

防団副団長及び藤原秀孝花巻北消防署長から講評と訓示がなされた。訓練の後半では、第2部婦人協力隊と神社関係者を中心とした消火器の取り扱い訓練も実施している。大瀬川の団員の活動としては、火災時の消火の他に、1月8日には市街で「出初め式」に参列したのをはじめ、これから火災予防巡視や各家庭への防火指導、消防演習、通常時における消防車や器具の点検、応急手当の普及など数え切れないほどの活動で、地域に安心安全をもたらしている。大瀬川の現在の団員は次の通り。

花巻市消防団本部長板垣光善さん、同石鳥谷地域本部部長佐藤学さん、同13分団長畠山敏広さん、同副分団長畠山勝敏さん、同団付部長板垣章郎さん、同第1部長 熊谷和紀さん、同班長 板垣雄一さん、藤原美輝さん、同団員 玉山敦さん、板垣生栄さん、藤原誠さん、柳原紘樹さん、熊谷信人さん、畠山拓さん、熊谷雄二さん。第2部長 畠山智明さん、同班長 菅原義孝さん、菅原渉さん、同団員 辻村智さん、菅原亮さん、畠山勝則さんである。

8区自治公民がみずき団子づくり

第8区自治公民館主催のみずき団子作りは、1月8日に大瀬川振興センターで児童6人、父兄10人、大瀬川中央長寿会6人、主催者役員10人の合わせて32人が参加して行われた。使われた「みずき」は、菅原正勝さん宅にある「みずき」を頂いたもの。舞台前には紅白の幕に囲まれた台座の中に、「みずき」と多くの「青笹」を差し込んで飾り付けた。

手順としては、お年寄り達が団子をしとねて、親子一緒に団子を丸め、「みずき」の枝に色とりどりの団子を付けたり煎餅や蜜柑などを吊り下げた。みずき団子は大瀬川に古くから伝わる小正月の行事で、本来は旧正月の1月15日であったが、現在では新暦の小正月として継がれている。

今までは、8区子供会の名称で参加しているが、各区の子供会が無くなった事で、今年は大瀬川子供育成会事務局長の玉山敦さんの主導で行う事ができた。参加した児童には、自分たちが作ったみずき団子の小枝とお菓子、お年寄りにもお菓子のお土産が渡された。小正月は本来5日間であるが、好評のため1月28日まで飾った。

役員がたろし滝の旗立て

去る1月15日に、大瀬川たろし滝測定保存会の役員19名が8班に分かれてたろし滝の幟旗を立ててまわった。市道大瀬川線がメインで「たろし滝へようこそ」と旗が風になびいていた。特に目立って良かったと思ったのは、国道4号と市道大瀬川線の交差点に立てられた4本で、宣伝効果が抜群であった。

町なかでは、道の駅や生涯学習会館のほかに県道中寺林大瀬川沿いにツルハドラック、ファミリーマート、矢川自動車、石鳥谷石油、岩銀、酒蔵交流館、ぷらっと、文化タクシー、キクコー、さらに郵便局、駅などに立てられていた。

みつくら

令和 5年2月15日 第380号
 発行 大瀬川活性化会議
 編集 「みつくら」編集委員会
 花巻市石鳥谷町大瀬川10-45-2
 大瀬川振興センター 電話45-6472

“お〜い!集まろう!創ろう!みんなの大瀬川!”

たろし神社・賽銭は前年の2.7倍

大瀬川たろし滝測定保存会（熊谷幸夫会長、会員148名）の総会は、令和5年1月29日付けで書面議決によって行われた。書面議決は、新型コロナウイルス感染症が発生してから3年経過しても、感染が一向に収まらないためのやむを得ない対応となった。

総会資料によると、今まで気付かなかったが大瀬川以外の会員が34名もおり、会員の23%を占めている。これも役員達の活動の成果であろう。

次に目を瞠ったのは、たろし神社のお賽銭である。なんと前年の2.7倍の42,023円と記されていた。賽銭担当の菅原黎治副会長さんにお聞きしたところ「今までコロナ禍の為に我慢して籠もっていたのが、新聞やテレビなどでたろし滝の太さが報道され、測定会の後に参観者も急激に増えたからでした」と話された。

たろし神社は、昭和59年2月11日（当時の測定会は2月14日）のたろし滝の道踏みの時に、板垣岑生さんが岩にドリルで穴を明け神棚を作り、鉄板で祭壇の受け台を設け役員が祭壇を飾り、板垣好一さんが注連縄を奉納したのが始まりであった。同年2月14日の第10回たろし滝測定会時に、たろし神社を山祇神社の分祀として菅原一男宮司により魂入れを行い、それから菅原宮司が亡くなられるまで祭祀が行われた。過去の総会資料をみると、お賽銭は平成20年までは4~8千円、23年に1万円となり、以後1万円~1万5千円で推移していた。

たろし滝に仮橋を架設

今年もたろし滝の時期が到来とあって、花巻市では1月21日に仮橋を架設した。仮橋が架かると同時に、多くの方々がたろし滝に向かう姿が見受けられると菅原黎治さんが話していた。

仮橋の県からの許可は3月15日までと表示されていた。1月下旬から寒波が続いており、積雪量も多くなっているため足下には充分気をつけて登って欲しい。

ブルリの杜で「二十歳を祝う会」

生活介護施設ブルリの杜では、1月20日に大瀬川振興センターで「二十歳を祝う会」が行われた。令和4年4月1日から法律で成人が18歳に2年繰り上がったことに伴い「成人式」を「二十歳を祝う会」と名称変更して開催したもの。

会場の準備は前日に行ない、北側の窓際に紅白の幕を張りめぐらして、その中央に演壇を設け、その脇には大きな花瓶に花がいっぱいに飾られていた。

ブルリの杜の利用者で二十歳になられたのは男女それぞれ1名で、そのご両親をはじめ、他の利用者と職員など32名が出席して祝われた。

熊谷和彦施設長は「二十歳になられましたお二人にはおめでとうございます。この日を迎えるまでには、ご家族の皆様方にはいろいろな事があったと思いますが、ここまで本当にご苦労様でした。ここブルリの杜では、利用者の得意なところは伸ばし、新たな能力を発起できるように職員一丸となって、共に楽しい場となるように取り組んでいきますので、宜しくお願ひ致します」と祝辞を述べられた。続いて、それぞれの卒業校である岩手県立みたち支援学校高等部と岩手大学教育学部附属特別支援学校高等部から、動画によるメッセージが写し出された。

ハイライトは「二十歳の誓い」でそれぞれ決意を述べて、会場は大きな拍手に包まれた。

ブルリの杜は、平成30年4月に旧犬飼町家の跡地に設立し、現在18名の利用者が通っている。ここでは新年を迎えた1月4日に「餅つき」、5日には「書初め」、13日には「みずき団子」を作り、それらに続く「二十歳の集い」と賑やかな新年のスタートとなった。

菅原さん夫妻が花巻市農業賞

2月4日に花巻農協総合営農指導拠点センターで開かれた令和4年度花巻市農業振興大会の席上で菅原清昇・みさ子さん夫妻に上田花巻市長から花巻市農業賞が授与された。

大会資料の功績概要として菅原さんは「昭和49年から花巻農協協同組合（当時は石鳥谷町農協）に勤務しながら、兼業農家として意欲的に従事。農協を退職後も様々な要職を務めながら農業に従事するなか、高齢化や離農により地域農業が衰退していく状況を危惧し、地域の農業者とともに平成12年に大瀬川高度水田利用組合を設立。転作作物の麦、大豆を栽培し、それに伴う特定作業受託組織としても稼働した。

さらに、農作業の利便性を図るべく基盤整備事業を推進しながら、平成27年11月に農事組合法人大瀬川を立ち上げ、同法人の理事として地域農業発展のため尽力している」と紹介された。菅原さんはこのほかにも花巻市農業委員を6年間、花巻市農地利用最適化推進委員も3年間担った。

これまでに大瀬川から花巻市農業賞を受賞された方は、平成20年に大瀬川高度水田利用組合、平成23年に板垣忠夫さん・眞喜子さん夫妻、平成25年に板垣光巳さん・順子さん夫妻、平成28年に板垣智恵子さん（生活文化部門）、同年に板垣幸寿さん・禮子さん夫妻が受賞している。

表彰（敬称略）

花巻市消防団表彰 花巻市長表彰の部（13分団）
 精錬章 辻村 智（2部）

訃報

○高田家の板垣功さんは、12月30日に86歳で亡くなりました。お身体も快方に向かわれていたとお聞きしてましたのに残念でなりません。

若い頃の板垣さんは、町連合青年会常任理事の傍ら宮城県の浅見酒造店や青森県の高島屋酒造店、宮城県の渡辺酒造店、青森県の西田酒造店などで酒屋稼ぎをされたのち、27歳の昭和38年に大瀬川で最初の家畜商（昭和24年施行）の免許を取得しました。それを機会に酒屋働きを辞め、町内の農家に馬や牛をお世話した方でした。家畜商法が定められる前の昭和23年までは、馬喰の鑑札制度があって、大瀬川では菅原善一郎（清五郎家）さんが取得しています。

同じ頃に、板垣さんは消防団でも活躍し、第4回岩手県消防ポンプ操法大会普通吸管の部で第4位入賞の選手でもありました。また、54歳から第8区自治公民館長を6年間担い、その後59歳で町議会議員を1期担われました。

山野草をこよなく愛し、栽培や販売などもされました板垣さんに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

○善助電家（9区）の熊谷善一さんは、1月13日に81歳で亡くなりました。

熊谷さんで思い出すのは昭和29年4月に石鳥谷中学校の生徒で設立された青雲四Hクラブの会員であったことでした。

当時、熊谷さんは中学校1年生で、大瀬川からの会員は他に3年生であった菅原久雄さん（久左衛門電家）と板垣邦博さん、佐藤晃司さん（惣次郎家）、2年生であった板垣岑生さんと菅原俊さん（上西海地家）、熊谷長悦さん（長四郎家）、板垣勇吉さん（立野家）、菅原正志さん（前ノ電家）、辻村良孝さん（上ノ台家、7区）達の名簿記録が残っています。

その青雲四Hクラブは、昭和32に事務所を大瀬川公民館に移して再出発し、主に高校へ進学しない方々が加入して活動し、農業研究大会では郡大会や県大会にもご一緒し、幾度も入賞したのを思い出します。その再出発の初代会長は熊谷さんでした。その後、時代の流れで青雲四Hクラブは昭和41年に解散しています。

熊谷さんは他に消防団や杜氏としても活躍し、福一力酒造や丸竹酒造、八洲鶴酒造、近藤酒造と歩み、杜氏となって川敬酒造に勤務してから8年後に病に倒れました。熊谷修治さんは喪主挨拶で「27年間の闘病生活でしたが、皆さんには大変お世話になりました」と礼を述べられました。

4年前までは大瀬川地区敬老祭にも車椅子で参加して下さり、笑顔で接して下さいました熊谷さんに、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。